

茅ヶ崎市立第一中学校

研究テーマ：すべての子どもたちが共に学び、共に育つ学校を目指して

1 実践の目的

本校は、平成27年度から30年度までの4年間、神奈川県教育委員会より「みんなの教室」モデル校の指定を受け、インクルーシブ教育の推進＝ユニバーサルデザインの視点を意識した授業づくりに取り組んできた。その背景を生かし、本校ではインクルーシブを意識した授業改善を継続してきた。

今までのインクルーシブの視点を意識した授業づくりを整理するとともに、学校の支援体制を整え、すべての子どもたちが共に学び、共に育つことのできる学校を目指したいという思いでテーマを設定した。

2 実践の内容

(1)「共に学び、共に育つ」ための手立て

昨年度の授業研究などの実践例をもとに、今年度は「共に学び、共に育つ」ための手立てを大きく3種類に分類し実践を行った。一つ目は、「学び方の選択」である。例としては、紙のワークシートとデジタルのワークシートを選択できたり、難易度別のワークシートを用意し選択できたりすることである。二つ目は、「協働学習」である。三つ目は、「その他」で、教科の特性などを生かした支援の在り方とした。例としては、体育のサッカーの授業において、ボールの空気を少し抜いておくことで苦手な生徒でもボールコントロールしやすくすることや、共有ノートを生かした、座席表での意見の可視化などである。

(2)一人一回の公開授業

校内研究に自分事として取り組み、自身の考えを同僚に発信することや、同僚から意見をもらい、授業をレベルアップしていくことを目的とし、年間で一人一回の公開授業を行うこととした。年数回の研究授業のみとなると、どうしても比較的経験年数の短い先生が授業者になることが多いが、一人一回の公開授業とすることで、ベテランの先生の公開授業を若手が参観することが可能となり、今まで以上に活発な議論が行われたり、理解が深まったりするものと考えた。

(3)「子どもの姿」から迫る授業検討会

研究授業後に行われる授業検討会において、中学校では自身の担当教科と違う教科の場合は発言が少なくなったり、「教科が違うので分からないのですが、」といった発言が出てきてしまったりする傾向がある。また、一般的に「学習者がどのように学んでいたか？」に関する議論より、授業者の提示する教材や、教授法についての議論が多くなりやすいとの指摘もされている。これらのことから、授業参観時には、「子どもの姿」を中心に授業を捉え、授業検討会では、授業の中での子どもの様子を中心としたやりとりが行われることを目指し、取り組んだ。

(4)「一中版 支援シート」づくり

授業研究を進めていく上で、子ども達をどのように見取っていくかということの重要性を感じた。学校としての、「共通のものさし」を作成することで、全教員が子どもた

ちをどのような視点で見取っていくかのブレが少なくなり、経験年数や学年などを問わず、同じ土俵で語りやすくなると考えた。結果として、それが適切な支援につながり、「共に学び、共に育つ」土台となる。今年度は、広島県教育委員会「気になる生徒の支援につなげるチェックリスト」などを参考に、チェック項目を選定した支援シートづくりを行い、来年度から本格的に使用していく。

一中版 支援シート

氏名(ふりがな)	所属	学年		担任
		学	科	

気になるところ・支援が必要なものチェックリスト

項目	内容	チェック
授業実践	1. 行動や発言の理由を聞いてみてほしい。	
	2. 話し言葉が流暢で、「知っている」「知っている」が聞き取れない。	
	3. 聞いた内容を覚えることが難しい。	
	4. 聞いた内容を覚えることが難しい。(教科書以外の教材や資料が、授業準備で足りない)	
	5. 授業に合わせた内容を教えることが難しい。	
	6. 聞いた内容を理解が難しい。(書けない、書かない、書かれないなど)	
	7. 学習指導の指示、要求事項が難しい。(教科書以外など)	
	8. ドラマ(日本劇)や小説(児童書)が読めないことが難しい。	
	9. (教科書以外)の教材や資料が、授業準備で足りない。(教科書以外など)	
	10. 学習指導の指示、要求事項が難しい。	
読み書き	11. 適切な漢字で読めることが難しい。(漢字が読めない、読み取れないなど)	
	12. 考えを話すとき、言葉が通じない。	
	13. 読書が楽しく、表現の仕方が分からない。	
	14. (単語を意味)を、(文)で表現することが難しい。	
	15. 書いた文章が通じない。	
	16. 読書が楽しく、表現の仕方が分からない。	
	17. 漢字が読めない。	
	18. 漢字が読めない。	
	19. 漢字が読めない。	
	20. 漢字が読めない。	
計算・算数	21. 算数の計算が難しい。	
	22. 算数の計算が難しい。	
	23. 算数の計算が難しい。	
	24. 算数の計算が難しい。	
	25. 算数の計算が難しい。	
	26. 算数の計算が難しい。	
	27. 算数の計算が難しい。	
	28. 算数の計算が難しい。	
	29. 算数の計算が難しい。	
	30. 算数の計算が難しい。	
社会・理科	31. 算数の計算が難しい。	
	32. 算数の計算が難しい。	
	33. 算数の計算が難しい。	
	34. 算数の計算が難しい。	
	35. 算数の計算が難しい。	
	36. 算数の計算が難しい。	
	37. 算数の計算が難しい。	
	38. 算数の計算が難しい。	
	39. 算数の計算が難しい。	
	40. 算数の計算が難しい。	
生活・学習	41. 算数の計算が難しい。	
	42. 算数の計算が難しい。	
	43. 算数の計算が難しい。	
	44. 算数の計算が難しい。	
	45. 算数の計算が難しい。	
	46. 算数の計算が難しい。	
	47. 算数の計算が難しい。	
	48. 算数の計算が難しい。	
	49. 算数の計算が難しい。	
	50. 算数の計算が難しい。	

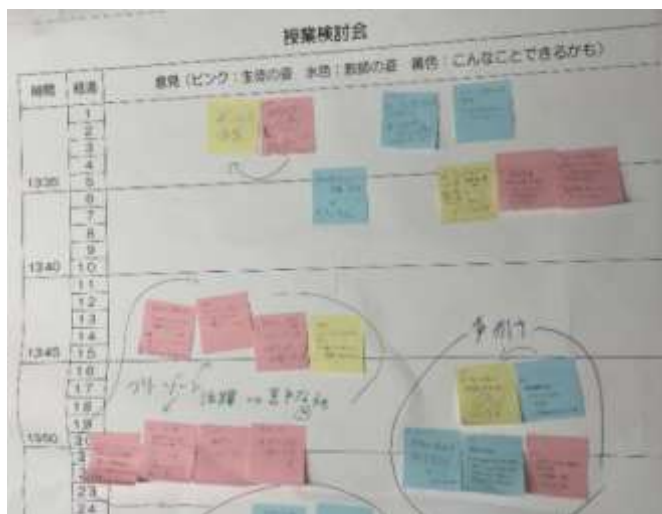
学年	読み・書き	計算・算数	生活・算数・理科	社会・生活	授業実践
1年	8	4	9	8	7

(5) 生徒向けインクルーシブ教育学習会
神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課の協力の元、生徒向けのインクルーシブ教育学習会を全学年で実施した。

生徒も、日々の授業や、インクルーシブ教育学習会を経て、「共に学び、共に育つ」意識の向上が見られた。

3 実践の成果

今年度の研究実践により、「共に学び、共に育つ手立て」の整理ができた。誰でも取り入れることのできる手立てや、教科の特性によるアイデアなど、多くの発見があった。また、授業検討会も、子どもの姿から語り合う検討会に変化させることができた。下の写真のように、子どもの姿に関する付箋紙の数が多くなった。



4 今後の展開

今年度は、授業内における「共に学び、共に育つ」ための手立てを3つに分類し、共通認識のもと取り組み、共有することで、実践力を高めることができた。一方で、それらの手立てをより効果的なものにしていくための、特別な支援を必要とする生徒への支援体制づくりには課題が残った。来年度は、その支援体制を学校全体で作っていききたい。